

2025 年 8 月 4 日(月)

ドイツからの短期留学生

宮田姉妹の多摩大聖ヶ丘体験入学報告

私は、この夏、小さい頃からの夢が叶って日本の学校（多摩大学附属聖ヶ丘中学高等学校、略して「たまひじ」）に通うことができました。この夢を実現させてもらえたこと、感謝してもしきれません。短い間でしたが、沢山の思い出ができました。

初日、私は緊張していましたが、とても優しいバディのくみちゃんのおかげで、安心したのを覚えています。校長先生の石飛先生は、学校で一番偉い人のはずなのに、いつも学校の中を歩き回って、みんなの様子を見ていてびっくりしました。お料理もとても上手で、まるで親戚のおじさんのような優しさで接してくれました。

私は、週に 1 度日本語補習校で国語の勉強を頑張っているし、日本語で本を読むのも大好きなので、日本語に苦手意識がありませんでしたが、初めて日本の学校で受けた授業は、知らない言葉がたくさんあって本当に難しかったです。

そして、とても驚いたことのひとつに、先輩と後輩の上下関係です。一つ学年が違っただけで、敬語を使っていることにとても驚きました。ドイツでは、先輩とも顔見知りなだけで「おう、調子どうよ？」みたいなノリで話しかけます(笑)。

また、先輩と後輩の関係がある部活動ですが、スポーツ以外にも数多くの部活動があって、とても羨ましいです。私は、ドイツの学校では園芸部に入り庭仕事や養蜂家の先生と仕事をしていますが、私のクラスで部活動に参加しているのは私一人だけだと思います。9 割以上が帰宅部です。日本では誰もが知っている高校野球の西東京都大会予選にも観戦・応援に参加することができました。「たまひじ」の高校野球の試合では、ダンスドリル部や吹奏楽部、先生や生徒もたくさん応援に駆けつけて、その一体感に圧倒されました。ドイツでは、サッカーやバレーボールが人気ですが、学校ではなく、みんな自分で選んだクラブチームに入って活動するので、学校のチームをみんなで応援する姿はとても素敵だなと思いました。

最後のお別れの日には、クラスの数人が集まってくれて一緒に人生ゲームをして、お菓子をたくさん食べて、おしゃべりできたのもとても嬉しかったです。くみちゃん、出水先生、来てくれた皆さん、本当にありがとうございました！そして、相手の事を思いやる優しさに出会いました。私は、生まれも育ちもドイツでも、見た目はアジア人なので、ドイツにいても外国人、日本にいても外国人という感じです。

今は政治的に「外国人」がテーマな話題が多く、複雑な気持ちになることが多いですが、この体験入学は、日本人であることを嬉しく思える体験でした。私も相手の事を思いやれる優しい気持ちを、いつも忘れないようにしたいです。

短い間でしたが、クラス、部活動、そして夏の特別講座『A 知探 Q の夏』で、多くの方々にお世話になりました。皆さんのおかげで、とても楽しく忘れられない体験入学になりました。本当に本当にありがとうございました。

(宮田衣咲)

私は、この体験入学に来る前は、日本語大丈夫かな？クラスメートはどんな子たちかな？先生は厳しいかな？と、他にも数えきれないほど不安でいっぱいでしたが、最初の日からスクールバスの運転手さんも先生方もクラスのみなさんともとても優しく、ホッとしました。

授業中クラスがとても静かで、遅刻する人が一人もいなくて、ピアスなどのアクセサリをまったく付けず、きちんと制服を着ている皆さんに囲まれていると、自然とお行儀よくしなくてはという気持ちになりました。印象に残ったのは校内放送です。ドイツの学校にもベルがありますが、校内放送はなく、5年生から1ー2年生までの全校生徒が体育館に集まると、足の踏み場もないほど混みます。この校内放送の便利さをドイツの学校にも持って帰りたいです。逆に、ドイツに持って帰りたくないと思ったのは、夏休みの宿題です。日本では夏休みに宿題が出ることは、ドラえもんの漫画で知っていましたが、とても驚いたのはその量です。夏休み中、部活動も宿題もあるのに、元気に楽しそうに過ごしている皆さんは本当にすごいです。『A知探Qの夏』の特別講座にも参加しました。「集中力養成」マイクロパズル(ジグソーパズル)は細かくて大変でしたが、みんなで一緒に作業ができて嬉しかったです。「スワヒリ語講座」では、あまり勉強する機会がない言語を知ることができて嬉しかったです。そして夏休み入って、クラスの子と遊びに行けたのは、最高の思い出です。

皆さん、こんな素敵な時間をありがとうございました。また会えるのを楽しみにしています。

(宮田多実)

